

※2015年12月改訂(第2版)  
2013年7月作成

細胞外液補充液  
ブドウ糖加酢酸リンゲル液

日本標準商品分類番号  
873319

貯法：室温保存  
使用期限：外箱、容器に表示

処方箋医薬品<sup>注1)</sup>

	200mL	500mL
承認番号	22000AMX01861	22000AMX01861
薬価収載	2015年12月	2008年12月
販売開始	2012年2月	1992年7月

注)注意－医師等の処方箋により使用する  
ること

リナセート<sup>®</sup>輸液  
RINACETO<sup>®</sup>

[組成・性状]

1. 組成

本剤は下記の成分を含有する。

成分	1袋(200mL)中	1袋(500mL)中
塩化ナトリウム	1.2g	3.0g
塩化カリウム	0.06g	0.15g
塩化カルシウム水和物	0.04g	0.10g
酢酸ナトリウム水和物	0.76g	1.90g
ブドウ糖	10.0g	25.0g

添加物	1袋(200mL)中	1袋(500mL)中
塩酸(pH調節剤)	適量	適量

熱量：40kcal(200mL中)、100kcal(500mL中)

電解質濃度(mEq/L)

Na <sup>+</sup>	K <sup>+</sup>	Ca <sup>2+</sup>	Cl <sup>-</sup>	Acetate <sup>-</sup>
130	4	3	109	28

2. 性状

本剤は無色澄明の液である。

pH	浸透圧比*
4.5~6.0	約2

\*生理食塩液に対する比

剤形：水性注射剤

※3. 製剤的事項

本剤に使用のプラスチックバッグの規格は次のとおりである。

	予備容量
200mLプラスチックバッグ	約125mL
500mLプラスチックバッグ	約175mL

(落差45cmで混注したときの混注可能量)

[効能・効果]

循環血液量及び組織間液の減少時における細胞外液の補給・補正、代謝性アシドーシスの補正、エネルギーの補給

[用法・用量]

通常成人、1回500mL~1,000mLを点滴静注する。  
投与速度は通常成人ブドウ糖として1時間あたり0.5g/kg体重以下とする。  
なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

[使用上の注意]

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)腎疾患に基づく腎不全のある患者  
[水・電解質の調節障害により症状を悪化させるおそれがある。]
- (2)心不全のある患者

[循環血液量の増加により心負荷増大のおそれがある。]

- (3)高張性脱水症の患者  
[本剤の電解質組成により脱水症を助長させるおそれがある。]
- (4)閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者  
[水排泄障害により原病の症状を悪化させるおそれがある。]
- (5)糖尿病の患者  
[高血糖を起こすおそれがある。]

2. 副作用

本品は、使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
大量・急速投与	脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

4. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- (1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。  
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
- (2)授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には授乳を避けさせること。  
[授乳中の投与に関する安全性は確立していない。]

5. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない)

6. 適用上の注意

- (1)投与前
  - 1)完全に澄明でないものは使用しないこと。
  - 2)開封後は速やかに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (2)調製時
  - 1)本剤はカルシウムを含有するため、クエン酸加血液と混合すると凝血を起こすおそれがあるので注意すること。
  - 2)リン酸イオン及び炭酸イオンと沈殿を生じるので、リン酸又は炭酸を含む製剤と配合しないこと。

[薬効薬理]

ヒトおよびイヌを用いた試験から、酢酸ナトリウムは、アルカリ化剤として速やかに利用される塩基源であること、及び酢酸ナトリウムの代謝臓器は全身に分布し、極めて速やかに代謝されることより、代謝性アシドーシスの治療に有益であることが報告されている。<sup>1)</sup>  
さらに、酢酸加リンゲル液を術中輸液として使用した報告より、酸塩基平衡の是正に有用であることが認められている。<sup>2)</sup>

※[取扱い上の注意]

1. 使用方法
  - (1)容器表面に水滴や結晶が付着している場合には使用しないこと。

- (2) 通気針は不要。
- (3) ゴム栓を保護しているシールがはがれているときは使用しないこと。
- (4) 混注する場合、注射針の刺針はゴム栓の周囲にある刺針部(凹部)を使用し、まっすぐ刺し入れること。斜めに刺すと、ゴム栓や排出口内壁の削り片が薬液中に混入したり、容器を刺通し液漏れの原因となることがある。また、同一箇所を繰り返し刺さないこと。
- (5) 輸液セットの瓶針はゴム栓の中央部の刺針部(凹部)にまっすぐ刺し入れること。
- (6) 容器の目盛りは目安として使用すること。
- (7) 本製品は、連結管(U字管)を用いたタンデム方式による投与はできないので、2バッグを同時又は連続して投与する場合は、Y型タイプの輸液セットを使用すること。

## 2. 安定性試験

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、3年間)の結果、含量等は規格の範囲内であり、本剤は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。

## [包装]


200mL×20袋(プラスチックバッグ)

500mL×20袋(プラスチックバッグ)

## [主要文献]

- 1) Mudge, G.H., et al. : Proc. Soc. Exp. Biol. Med., 71, 136, 1949
- 2) 谷藤泰正 他：麻酔, 32, 1347, 1983

## [文献請求先]

株式会社 陽進堂 お客様相談室  
東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号  
 0120-647-734

## 製造販売元

**エイワイファーマ株式会社**

東京都中央区日本橋浜町二丁目31番1号

## 販売元

 **株式会社 陽進堂**  
富山県富山市婦中町萩島3697番地8号